



本資料は、米国アッヴィ社が2020年7月31日(米国時間)に発表したプレスリリースを一部、日本語に翻訳し、2020年8月6日(日本時間)、皆さまのご参考として供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語が優先します。本資料(英文)については、[www.abbvie.com](http://www.abbvie.com)をご覧ください。なお本文中には日本未承認薬、未承認適応症に関する情報が含まれています。

## PRESS RELEASE

2020年8月6日

### アッヴィ、2020年第2四半期の業績を発表

- 2020年5月8日、アッヴィはアラガンの買収を完了しました。これにより、新しい治療領域が加わり、収益基盤を大幅に拡大・多様化し、長期的な成長潜在力を高め、各治療カテゴリーにおけるイノベーションへの投資が可能となります。
- 第2四半期の希薄化後1株当たり損失はGAAPベースで、0.46ドルでした。調整後希薄化後1株当たり利益(EPS)は、2.34ドルでした。
- 第2四半期の売上高は、アラガンの四半期の一部とCOVID-19パンデミックによる影響を踏まえ、報告ベースで26.3%増の104億2,500万ドルでした。
- イミュノロジー(免疫)ポートフォリオの第2四半期の世界の売上高は、報告ベースで8.1%増、営業ベースで8.6%増の53億1,600万ドルでした。ヒュミラ®の米国での売上高は、4.8%増の39億7,400万ドルで、米国外ではバイオシミラーの影響により、報告ベースで19.9%減、営業ベースで17.4%減の8億6,300万ドルでした。スキリージ®の全世界での売上高は、3億3,000万ドルでした。リンヴォック®の全世界での売上高は、1億4,900万ドルでした。
- 第2四半期の血液腫瘍領域の売上高は、報告ベースで25.5%増、営業ベースで25.8%増の15億9,100万ドルでした。イムブルビカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社が承認、発売)の全世界での売上高は17.2%増の12億8,800万ドルで、その内訳は、米国内が10億5,500万ドル、米国外が2億3,300万ドルでした。ベネクレクタ®の全世界の売上高は、3億300万ドルでした。
- エステティクスポートフォリオの第2四半期の全世界の売上高は、4億8,100万ドルで、その内、ボトックス・コスメティックは、2億2,600万ドルでした。
- 2020年における統合後のGAAPベースの希薄化後EPSの見通しは、4.12~4.22ドルで、2020年における統合後の調整後希薄化後EPSの見通しは、アラガンビジネスからの11%の年間純増額を反映して10.35~10.45ドルを提示します。統合後のガイ



ダンスは、2020年5月8日から2020年12月31日までのアラガンの業績が含まれます。

米国イリノイ州ノースシカゴ、2020年7月31日—アッヴィ(NYSE: ABBV)は、2020年第2四半期(2020年6月30日終了)の業績を発表しました。

アッヴィの会長兼 CEO のリチャード・A・ゴンザレスは、次のように述べています。「アッヴィは今期も見通しを超える良好な業績を達成しました。旧アッヴィの COVID-19 によるビジネスへの影響は予想を下回り、主要製品がこうした環境においてもしっかりと対応できていることを示しています。新規の患者さんへの処方も安定し回復し始めました。アラガン社との統合については、エステティクスポートフォリオの回復は好調で予想を上回る結果で順調に推移しています」

## 第2四半期の業績

- 全世界の売上高は、報告ベースで 26.3%増、比較可能な営業ベースでは 5.3%減の 104 億 2,500 万ドルでした。これには、COVID-19 パンデミックの影響が含まれます。
- イミュノロジー(免疫)ポートフォリオの全世界の売上高は、報告ベースで 8.1%増、営業ベースで 8.6%増の 53 億 1,600 万ドルでした。
  - ヒュミラ®の全世界の売上高は、報告ベースで 0.7%減、営業ベースで 0.2%減の 48 億 3,700 万ドルでした。米国での売上高は、4.8%増の 39 億 7,400 万ドルで、米国外ではバイオシミラーの影響により、報告ベースで 19.9%減、営業ベースで 17.4%減の 8 億 6,300 万ドルでした。
  - スキリージ®の全世界での売上高は、3 億 3,000 万ドルでした。
  - リンヴォック®の全世界での売上高は、1 億 4,900 万ドルでした。
- 血液腫瘍領域の売上高は、報告ベースで 25.5%増、営業ベースで 25.8%増の 15 億 9,100 万ドルでした。
  - イムブルピカ®の全世界での売上高は 17.2%増の 12 億 8,800 万ドルで、その内訳は、米国内が 10 億 5,500 万ドル、米国外が 2 億 3,300 万ドルでした。
  - ベネクレクスタ®の全世界の売上高は、報告ベースで 79.2%増、営業ベースで 81.5%増の 3 億 300 万ドルでした。
- エステティクスポートフォリオの全世界の売上高は、COVID-19 パンデミックの影響により、比較可能な営業ベースで 47.9%減の 4 億 8,100 万ドルでした。
  - ボトックス・コスメティックの全世界の売上高は、COVID-19 パンデミックの影響により、比較可能な営業ベースで 43.1%減の、2 億 2,600 万ドルでした。
- 神経疾患ポートフォリオの全世界での売上高は、報告ベースで 100.0%増、比較可能な営業ベースで 1.8%増の 7 億 3,400 万ドルでした。
  - ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社が販売)の全世界の売上高は、COVID-19 パンデミックの影響により比較可能な営業ベースで 22.3%減の 2 億 9,700 万ドルでした。



- Vraylar(日本で未承認・未発売)の全世界の売上高は、比較可能な営業ベースで70.4%増の1億9,200万ドルでした。
- Ubrelyvy(日本で未承認・未発売)の全世界の売上高は、2,200万ドルでした。
- GAAPベースで、売上総利益率は64.4%でした。調整後売上総利益率は82.8%でした。
- GAAPベースで、売上高に占める販売費および一般管理費の割合は、33.8%でした。調整後の売上高に占める販売費および一般管理費の割合は22.9%でした。
- GAAPベースで、売上高に占める研究開発費の割合は、15.2%でした。調整後の研究開発費の売上高に占める割合は、パイプラインへの投資を反映し、12.8%でした。
- GAAPベースで、第2四半期の営業利益率は7.2%でした。調整後営業利益率は47.0%でした。
- GAAPベースで、純支払利息は6億1,400万ドルでした。調整後の純支払利息は4億8,400万ドルでした。
- GAAPベースの税率は、6.5%でした。調整後の税率は、11.4%でした。
- 第2四半期の希薄化後EPSは、GAAPベースで0.46ドルの損失でした。特定項目を除く調整後希薄化後EPSは、2.34ドルでした。

注意: 「比較可能な営業ベース(Operational)」の対比は、アラガンの当四半期と前年同期の比較が含まれます。アラガンの統合手続きの完了は2020年5月8日ですが、2019年1月1日に統合したものとして、恒常為替レートで提示し、前年の為替レートにより現地通貨売上高の比較を実施しています。詳細については、主要製品売上高の表をご参照ください。「営業ベース(Operational)」の対比は、恒常為替レートで提示し、前年の為替レートにより現地通貨売上高の比較を実施しています。

詳細な情報はこちらをご覧ください(英文オリジナル)。

[https://news.abbvie.com/news/press-releases/abbvie-reports-second-quarter-2020-financial-results.htm?\\_ga=2.67606871.751608688.1596407939-1981119634.1590972083](https://news.abbvie.com/news/press-releases/abbvie-reports-second-quarter-2020-financial-results.htm?_ga=2.67606871.751608688.1596407939-1981119634.1590972083)

## アッヴィについて

アッヴィのミッションは現在の深刻な健康課題を解決する革新的な医薬品の創製と提供、そして未来に向けて医療上の困難な課題に挑むことです。患者さん一人ひとりの人生を豊かなものにするため次の主要領域に取り組んでいます。免疫疾患、がん、神経疾患、アイケア、ウイルス、ウイメンズヘルス、消化器疾患、さらにアラガンエステティクスポートフォリオの製品・サービスです。アッヴィの詳細については、[www.abbvie.com](http://www.abbvie.com) をご覧ください。Twitter アカウト@abbvie、[Facebook](https://www.facebook.com/abbvie)、[LinkedIn](https://www.linkedin.com/company/abbvie) や [Instagram](https://www.instagram.com/abbvie) でも情報を公開しています。

## Forward-Looking Statements

Some statements in this news release are, or may be considered, forward-looking statements for purposes of the Private Securities Litigation Reform Act of 1995. The words "believe," "expect," "anticipate," "project" and similar expressions, among others, generally identify



forward-looking statements. AbbVie cautions that these forward-looking statements are subject to risks and uncertainties, including the impact of the COVID-19 pandemic on AbbVie's operations, results and financial results, that may cause actual results to differ materially from those indicated in the forward-looking statements. Such risks and uncertainties include, but are not limited to, failure to realize the expected benefits of the Allergan acquisition, failure to promptly and effectively integrate Allergan's businesses, significant transaction costs and/or unknown or inestimable liabilities, potential litigation associated with the Allergan acquisition, challenges to intellectual property, competition from other products, difficulties inherent in the research and development process, adverse litigation or government action, and changes to laws and regulations applicable to our industry. Additional information about the economic, competitive, governmental, technological and other factors that may affect AbbVie's operations is set forth in Item 1A, "Risk Factors," of AbbVie's 2019 Annual Report on Form 10-K, which has been filed with the Securities and Exchange Commission (SEC). AbbVie undertakes no obligation to release publicly any revisions to forward-looking statements as a result of subsequent events or developments, except as required by law.